

「第18回あきたエコ&リサイクルフェスティバル」出展報告

1. 出展概要

- 日時：2018年9月1日（土）10:00-16:00、2日（日）10:00-15:00
- 場所：秋田駅前アゴラ広場、買物広場大屋根下
- 出展場所：ブース②③（茜屋珈琲店向かい）：全体では43ブース
- 出展タイトル：「秋田大学・秋田県立大学共同ライフサイクルデザイン工学専攻」
- 出展内容・担当者・特記事項

(1) エコ・リサイクルクイズ（図1参照）：回答者数127名

エコ&リサイクルクイズ(正しいと思うものに○をつけてください) 協賛：秋田三菱自動車販売株式会社

【12】日本の紙類製品のうち、紙スクラップから作られる（リサイクルされる）のは何パーセントくらいでしょう？
A. 10% B. 35% C. 90%

【11】右のマークがついている製品は、リサイクルしたペットボトルを何%以上含むでしょう？
A. 10% B. 25% C. 90%

【10】繰り返し使える（リユースできる）瓶の名前はどれでしょう？
A. リターナブル瓶 B. リバーシブル瓶
C. ポータブル瓶

3Rとは：

- ・リデュース（Reduce ごみの量を減らす）
- ・リユース（Reuse 何度も使う）
- ・リサイクル（Recycle 再び製品にする）

【9】2015年度に秋田県民一人が出した一日あたりのごみ（一般廃棄物）の量はどのくらいでしょう？
A. 500グラム B. 1000グラム C. 5000グラム
このごみをリサイクルや処理をして、埋めるのは約1/10になります。

【8】エアコンや冷蔵庫などに使われているモーターが、少ない電気で動くようになったのは、どの装置のおかげでしょう？
A. 太陽電池 B. インバータ C. LED

【7】家庭で使われるエネルギーの量にあまり関係しないものはどれでしょう？
A. 照明の人数 B. 世帯の户数 C. 地域の気候

工業製品のライフサイクル

内注原料 / パーソナル原料

製造工場 / リサイクル / 資源リユース / エネルギー / 製品運送 / 販売 / 回収

秋田大学・秋田県立大学
共同ライフサイクルデザイン工学専攻

【1】紙パックを再生原料としてリサイクルして製造した紙製品は次のどれでしょう？
A. トイレ用紙 B. 段ボール箱 C. 新聞紙

【2】再生可能エネルギーは、次のどれでしょう？
A. 石油 B. 原子力 C. 風力

【3】2018年3月において、秋田県内にある風車の数はどのくらいでしょう？
A. 100以下 B. 100から150 C. 150以上

【4】工場でもものをつくるとき、環境への負担が少ないエネルギーの使い方は次のどれでしょう？
A. 捨てる熱を使う B. 石炭を使う C. 遠くに運ぶ

【5】ディーゼルトラックで排気ガスをきれいにするために使われる部品は次のどれでしょう？
A. 増圧機 B. 尿素（おしこの成分） C. ブドウ糖

【6】発進・停止をくりかえすモーターとして一番エネルギー効率が良いのは次のどれでしょう？
A. 電気自動車 B. ガソリン自動車 C. ディーゼル自動車

秋田大学・秋田県立大学 共同ライフサイクルデザイン工学専攻とは？
平成24年春に、秋田大学と県立大学は共同大学院（前期課程）を開設しました。新たな進学の選択肢です。社会人や留学生も積極的に受け入れています。環境負荷の低減や循環型社会の形成は多くの産業において重要なテーマとなっています。そのため、本共同専攻の目的と産業界の要望とは良く一致しており、本共同専攻修了者は県内・県外のさまざまな企業に就職し、活躍しています。

ライフサイクルデザイン工学とは？
製品の企画、設計、製造から廃棄、リサイクルまでの「ライフサイクル」において環境負荷の低減を考慮する、工学の一分野です。県立大学の建築・経営の領域、秋田大学の資源環境・応用化学・土木の領域、双方にある機械・電子・情報の領域が融合した新しい工学です。循環型社会の形成に貢献する人材、環境に配慮しつつ地域社会の発展に貢献する人材の育成を目指しています。

図1 エコ・リサイクルクイズ

(2) パネル展示（図2参照）



図2 ブースの写真